

〔図説〕 松本歯学 28 : 144~146, 2002

key words : 3DX—mandibular canal—pericoronitis

## 歯科用小型 X 線 CT (3DX) 画像診断： 智歯周囲炎による骨吸収と下顎管の位置の確認に有用であった 1 例

内田 啓一, 新井 嘉則, 永山 哲聖, 塩島 勝

松本歯科大学 歯科放射線学講座

Diagnostic imaging by tiny computer tomography for dental use (3 DX) :

A case of pericoronitis of a wisdom tooth in which the bone absorption  
and the location of the mandibular canal were confirmed usefully

KEIICHI UCHIDA, YOSHINORI ARAI, TESSEI NAGAYAMA and MASARU SHIOJIMA

Department of Oral Radiology, Matsumoto Dental University School of Dentistry

下顎第三大臼歯部の炎症の画像検査は口内法 X 線撮影, パノラマ X 線撮影を行い 2 次元的な画像でその位置や周囲の解剖学的構造物との関係を観察してきたが, 抜歯や智歯周囲炎の診断には情報不足であることが多い。今回, 歯科用小型 X 線 CT (モリタ製作所, 京都, 以下 3 DX とする) により, 智歯周囲炎による骨吸収と下顎管の位置確認に有用であった 1 例を経験したので, その画像を供覧し報告する。

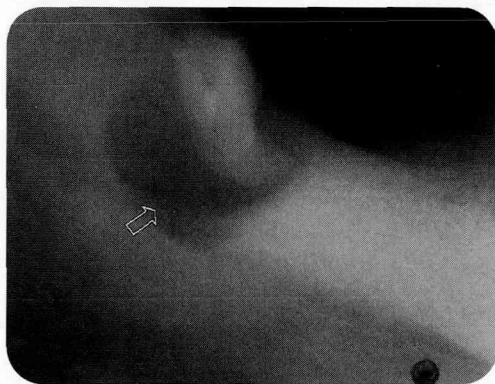


写真 1

口内法 X 線写真：透過像と下顎管は重複している  
(矢印)。

患者は 67 歳, 男性であり, 本学にて補綴処置を行っていたが, 下顎右側第三大臼歯が保存不可能となり, 口腔外科に抜歯の依頼となった。同部の状態を観察するために, 2002 年 6 月 4 日, 口内法 X 線撮影と 3 DX による撮像を行った。口内法 X 線写真においては, 残根と周囲に大きな透過像が認められ, 下顎管と重複して認められた (写真 1)。このため骨の状態, 下顎管との位置関係精査のため 3 DX を追加した。3 DX では残根が完全に浮遊歯の状態であるのが認められ (写真 2), 病変部と下顎管が近接しており, 舌側の皮質骨が菲薄化していて一部消失していた (写真 3)。下顎管の位置を詳細に観察を行うために, 下顎管に対して垂直に断面像を再構成した。下顎管は病変部に対しては頬側方向に認められ, 舌側の皮質骨も菲薄化していることが明らかになった (写真 4)。

また, パーソナルコンピュータを使用することで, 3 DX 画像による下顎第三大臼歯部の骨吸収の状態, 下顎管との関係を三次元的に動画として観察することができ, 治療方針の決定に有用な情報を与えることができた。また, 今回の症例のような場合は経過観察にも有用であり, 患者に負担

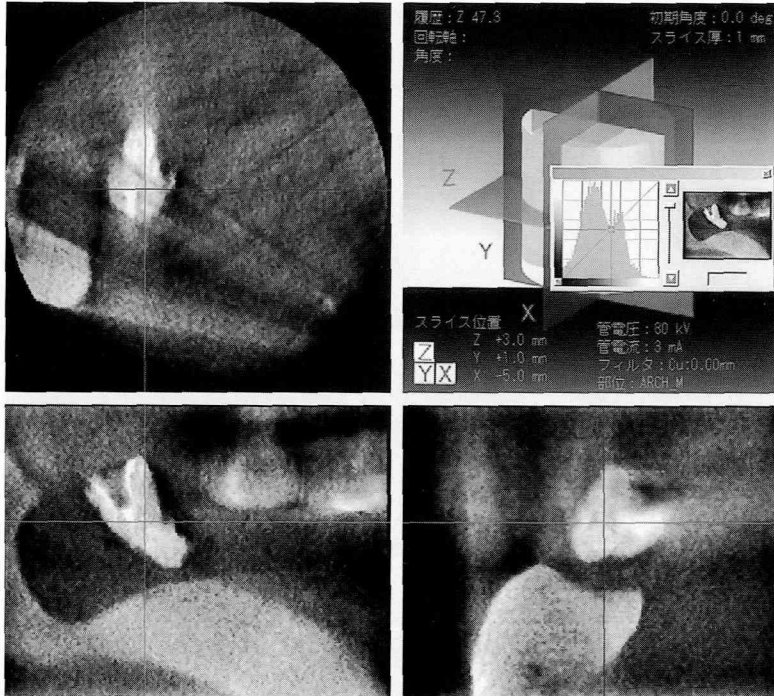


写真2 : 残根が完全に浮遊歯の状態である (写真2) .

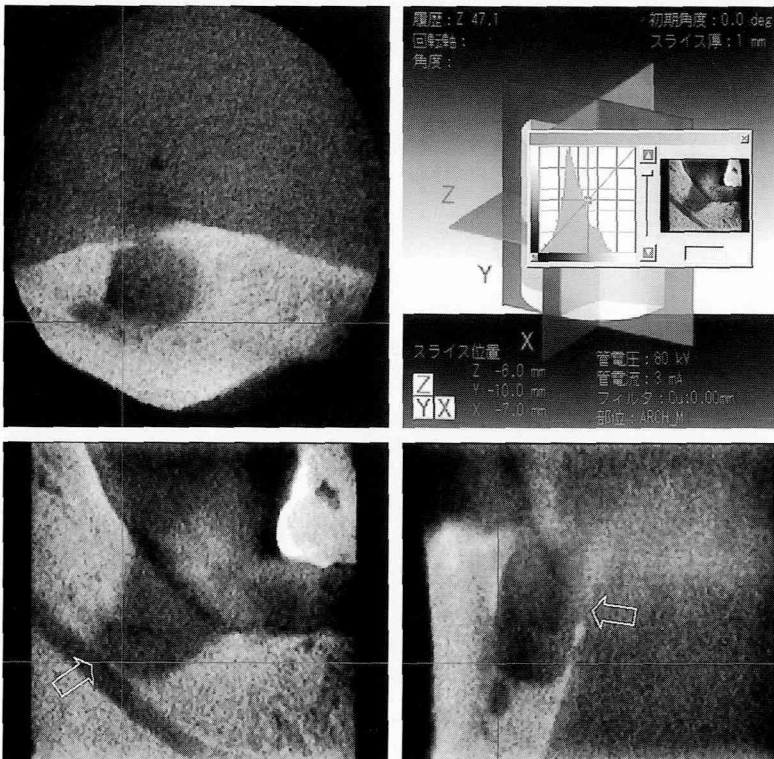


写真3 : 病変部と下顎管が近接しており, 舌側の皮質骨が菲薄化して一部消失している (矢印) .

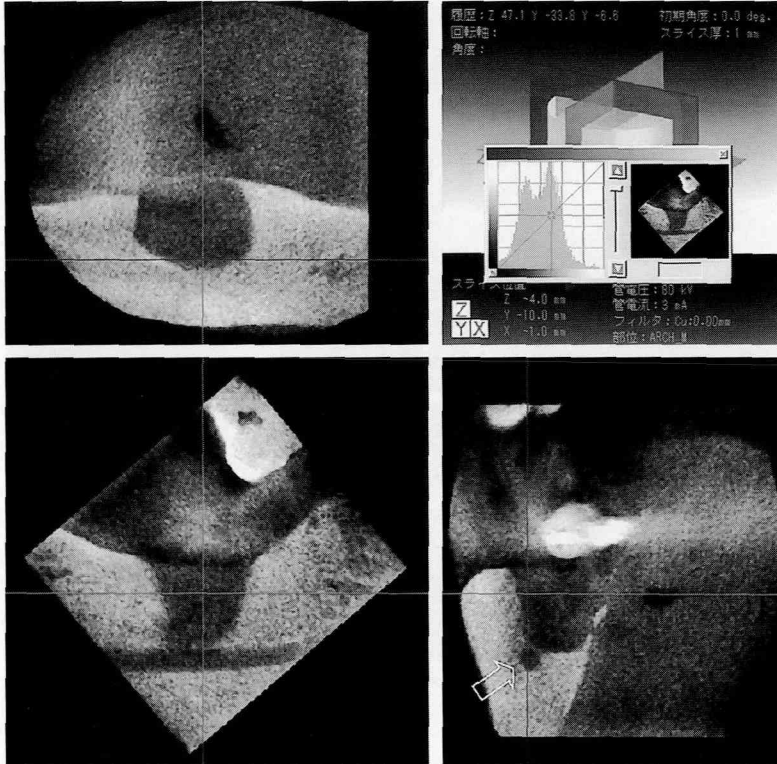


写真4：下顎管に対して垂直な断面で3DX画像を再構成した。下顎管は病変部に対しては頰側方向に認められる(矢印)。

を掛けない合理的な画像検査法の一つであると思われた。